

折れたブナ 80メートル飛ばされた

十和田

南八甲田の猿倉岳(標高1353.7㍎、十和田市)東斜面で5月初旬、局地的な突風が原因とみられる倒木被害が発見された問題で、弘前大学大学院理工学研究科の石田祐宣准教授「気象学Ⅱ」らが同月29日、被害の追加調査を行った。折れたブナの幹が80㍎ほど飛ばされたことなどを新たに確認。石田准教授は今回のデータを基に被害発生当時の風速を推計する。

「猿倉おろし」風速推計へ

一緒に調査した同市の末正明代表は2008年自然保護団体「八甲田」までに、現場付近で同様十和田を愛する会」の久の被害を10回程度確認。



突風で折れ約80㍎飛ばされたとみられる直径約20㍎、長さ5㍎余りのブナの幹。5月29日、猿倉岳東斜面下方の矢櫃滝付近

幹や枝散乱 一部登山ルートにも

ストなど全ての可能性を排除せずに突風の原因を探りたい」としている。過去の被害状況と照らし合わせて、今回も50㍎以上の風速だったとみている。

追加調査では、猿倉岳東斜面下方の矢櫃滝(同1061㍎)にブナやアオモリトドマツの折れた幹や枝が7日時点より多数散乱しているのも確認。葉の枯れ具合から雪解けに伴い埋もれていたものが現れたとみられ、

5月ごろまでに複数回の突風被害があったことがより明らかになった。道の脇を通る旧県道と呼ばれる登山ルートにも枝などが散乱。折れた木の幹が立ち木に引っかか

り道をふさいでいるところもあり、久末代表は「道を通れなくて(安全が必要)湿地のへりを歩く入山者も出てくるかもしれない」と指摘した。



【写真上】約80㍎飛ばされたブナの根元とみられる部分。高さ2.5㍎ぐらいのところから引きちぎられるように折れていた「同下」飛ばされた木が道をふさぐように立ち木に引っかかった矢櫃滝脇の登山ルート。右側に滝がある

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp